



町会の皆さまにおかれましてはお元気にお過ごしのことと存じます。さて、昨年7月に、事業所名が極東石油工業(同)千葉製油所から東燃ゼネラル石油(株)千葉工場に変わりましたが、当工場の操業につきましては、引き続き皆さま方から温かいご理解と多大なご協力を賜り、心より厚くお礼を申し上げます。

最近の千葉工場内でのトピックスを中心とした「TG(\*注)ニュースレター」第1号をお届けしますので、是非ともご高覧頂ければ幸いです。

\*注: TG=英文社名の一部、TonenGeneralの略称

## 1. 誕生！ 東燃ゼネラル石油(株)千葉工場

昭和38年(1963年)6月に設立された「極東石油工業」は、創業53年目を迎えた昨年7月に「東燃ゼネラル石油(株)」に吸収合併され、新たに同社の千葉工場としてスタート致しました。半世紀にわたって地域の皆さまに慣れ親しんで頂いた社名が変わることは、とても寂しいものがありますが、東燃ゼネラルグループという大きな組織の仲間入りをした訳ですから、無事故・無災害の継続はもちろん、一層の地域貢献を果たすことが出来るように努力したいと思います。社名変更に伴い、当工場の正門の社名表示、国道16号グリーンベルトのサイン・ポール(右写真)などが入れ替わりましたので、町会の皆さまにおかれましては、千葉工場の新しい社名を末永く宜しくお願ひ申し上げます。



### 東燃ゼネラルグループの 製造・物流拠点

#### 生産能力

石油(千バレル/日)	川崎	堺	和歌山	千葉	合計
常圧蒸留装置	258	156	132	152	698
流動接触分解装置	92	46	39	34	211
重質油脱硫分解装置	34.5	-	-	-	34.5
石油化学製品(千トン/年)					
エチレン	540	-	-	-	540
プロピレン	545	105	-	102	752
ベンゼン	96	87	137	72	392
パラキシレン	-	222	280	-	502

#### 物流拠点: 9 油槽所



極東石油工業時代は、いわゆる「一社一工場」として、ここ市原市千種海岸の千葉製油所が唯一の工場でした。これからは関東圏、関西圏にそれぞれ2ヶ所ずつの計4ヶ所の工場からなる高効率生産体制の一翼を担う事になります。ここで、東燃ゼネラルグループの使命(ミッション)をご紹介します。

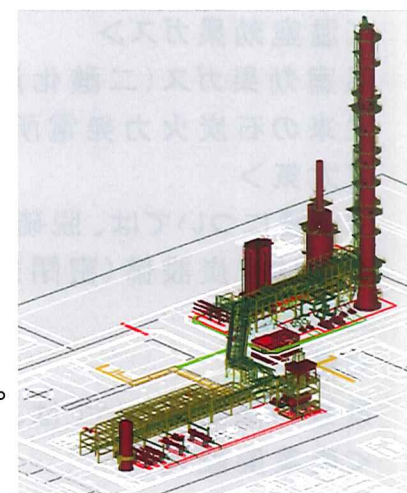
- **社会への使命:** 人々の暮らしを支えるエネルギーの安定供給と優れた製品・サービスの提供を通じて、活力ある社会の発展に貢献します。
- **環境への使命:** 限りある資源を有効活用し、持続可能な地球環境の維持に努めます。
- **ステークホルダーへの使命:** お客様、従業員、株主、ビジネスパートナー、地域社会の方々に選ばれる価値、喜ばれる価値を創造します。  
千葉工場もこの使命を果たすべく、邁進して参ります。

## 2. キシレン回収設備新設プロジェクト

ガソリンの国内消費は今後、下降傾向をたどることが予想されていますが、東燃ゼネラルグループでは売上に占める燃料油(ガソリン、軽油など)の減少分を化学品(キシレン(\*注)など)にシフトする戦略を進めています。

\*注: キシレン=芳香族炭化水素の1つで、改質油から分留・抽出される可燃性液体。溶剤として広く利用される他、PET ボトルや繊維(ポリエステル)などの原料となる。

現状では当工場にはキシレン留分を回収する装置が無いために、高キシレン改質油を他工場に転送して回収していますが、2016年完成を目指して「キシレン回収設備」の建設が昨年4月にスタートしました。これまで工事は順調に進んでおり、高さ80mのキシレン分離塔も姿を現しました。設備稼働後はガソリン基材油から全てのキシレン留分を回収することが可能になります。



【設備完成予想図】

## 3. 千葉パイプラインプロジェクト



このプロジェクトはコスモ石油とTGグループが共同で進めているもので、コスモ石油千葉製油所とTG千葉工場をパイプラインで結び、お互いに半製品を融通し合せて、両製油所の効率化および最適化を図ります。双方の製造設備を相互利用し、重質油留分の生産抑制と高付加価値製品(ガス・ガソリン・軽油など)の生産を最大化することにより、相乗効果による大きな収益改善が期待されています。

両製油所間をつなぐトンネルは長さ1.6km、内径3.6mで、シールドマシンを使ってコスモ石油側からTG側に向かって掘り進めます。深さは約40mで、頑丈な岩盤に敷設しますので、海上部分の甲子湾、地上部分のKHネオケム(株)様、宇部興産(株)様への地盤強度面での問題はありません。そしてトンネルの中には9本の配管と関連設備が新設されることとなります。工事は昨年6月にスタートし、2018年前半にすべての工事が完成する予定です。完成後は、両製油所が「国際競争力を持った国内トップクラスの製油所」に進化していますのでご期待下さい。

## 4. 市原火力発電所建設計画

はじめに

TGと㈱関電エネルギーソリューションは、TG 千葉工場構内において化石燃料の中で最も経済性や供給安定性に優れた石炭を燃料とした約 100 万 kW の発電事業の計画に向け準備を開始しています。両社は共同出資により、新たに「市原火力発電合同会社」を設立し、長期にわたる低廉な電力の安定供給確保に向けて取り組むこととしました。今回の計画では TG 千葉工場の効率化計画の一環として実施する石油タンク撤去の跡地等を有効活用していきます。(下図青枠箇所)

事業の概要

対象事業の名称	市原火力発電所建設計画
対象事業実施	千葉県市原市千種海岸 1 番地他 (東燃ゼネラル石油株式会社 千葉工場構内)
区域の所在地	
原動機の種類	汽力 (蒸気の膨張力を利用した発電方式)
出力	約 100 万 kW
燃料	石炭
着工時期	平成 31 年 (予定)
運転開始時期	平成 36 年 (予定)

対象事業実施区域 (赤枠)



**現在、環境アセスメントの手続きを進めています！**

環境アセスメントは対象事業が周辺の自然環境、生活環境などに与える影響について、地元住民の皆様、地方公共団体などの意見を取り入れながら、事業者自らが調査・予測・評価を行うもので「配慮書」「方法書」「準備書」「評価書」の 4 段階の手続きがあります。一連の手続き終了後、許認可等の審査を踏まえ、事業実施(工事着工)に進みます。

- ① 配慮書: 事業の位置・規模等の検討段階において環境保全のために配慮すべき事項についての検討結果を伝えるもの
- ② 方法書: **これから行う環境アセスメントの方法を伝えるもの** ← 現在(2016年2月)は方法書手続きが開始された段階
- ③ 準備書: 環境アセスメントの結果を伝えるもの
- ④ 評価書: 準備書に対する意見を踏まえて、必要に応じてその内容を修正したもの

	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31年)	2020年 (平成32年)	2021年 (平成33年)	2022年 (平成34年)	2023年 (平成35年)	2024年 (平成36年)
環境アセスメント 手続き		配慮書 手続き	方法書 手続き	現況調査	準備書 手続き	評価書 手続き				
土木・建築 工事		現在				着工				
設備工事										
試運転										運転開始

計画の概要(環境への配慮)

**私たちは環境負荷低減に向けて、様々な取り組みを行ってまいります。**

<温室効果ガス>

温室効果ガス(二酸化炭素)については、利用可能な実績のある発電技術である超々臨界圧(USC)発電設備を採用し、従来の石炭火力発電所に比べて高効率化を図り、低炭素化に資するものとします。

<大気>

ばい煙については、脱硫装置、脱硝装置及び集じん装置により適正に処理した後、排出します。

石炭は貯炭設備(密閉式サイロ)に貯蔵し、石炭粉じんの飛散防止対策を施した密閉構造のコンベヤ等によりボイラーへ輸送します。

<景観>

景観の保全については、「景観法」等に基づいたものとし、建屋の色彩等は周辺環境との調和に配慮します。

<産業廃棄物>

産業廃棄物については、石炭灰をセメント原材料等として全量を活用するなど、発生した廃棄物の有効利用に努め、有効利用が困難なものは法令に基づき適切に処理します。

住民説明会の開催

下記のとおり住民説明会を開催いたしますので、ご多用中とは存じますがご出席下さいますようお願い申し上げます。

- ・平成 28 年 2 月 14 日(日) 午後 2 時から午後 4 時まで  
市原市五井会館大ホール(千葉県市原市五井中央西 2-3-13)  
五井会館の専用駐車場は少ないので公共交通機関をご利用下さい。
- ・平成 28 年 2 月 25 日(木) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分まで  
市原市市民会館小ホール(千葉県市原市惣社 1-1-1)

《お願い》 当社では「安全操業」を基本として、地域の皆さまにご迷惑をお掛けすることの無いように操業しておりますが、何かお気付きの事がございましたら誠に恐れ入りますが、右記までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

平日 昼間 : 総務課 ・ 23-9580  
夜間/休日 : 宿日直室 ・ 23-9370